１．人間環境学部の特色とねらい（2020年度生用）

今，私たちが取り組むべき課題は，『持続可能な社会の制度と政策のあり方』を見出していくことです。ここで“持続可能性（Sustainability）”という概念は，世代間衡平性（Intergenerational Equity）または世代間責任（Intergenerational Responsibility），すなわち，“将来世代がそのニーズを満足させる可能性を損なうことなしに，現世代がそのニーズを満足させる”という性質を表すとされています。言いかえれば，同時代を生きている地球上全ての人類にとって必要な「持続可能性」が求められていると同時に，2050年に地球人口が90億人を突破してもなお有効な「持続可能性」でなければならないのです。

現代社会において必要なことは，社会・文化・経済・政治・法律・自然・科学技術などが複合的に関連する領域において，環境問題を総合的に把握・分析し，人間と環境のあるべき関係を探求し，有効な解決策を見出していくことです。環境汚染を技術的に除去・防止するような事後的で個別的な解決策では不十分であり，「持続可能な社会」の構築を目標とした計画的で全体的な解決策が必要です。このためには，社会・経済・政治・法律分野の環境関係の専門知識のみならず，人文・自然科学分野の環境関係の基礎知識を有する社会科学系の環境の専門家を育成することが急務です。

⑴　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間環境学部は，持続可能な社会の実現に貢献できる学生を養成するため，以下の３点を学士課程教育として身につけるべき学士力として明示します。

①　知識・技能

社会・文化・経済・政治・法律・自然などが複合的に関連する領域において，環境問題を総合的に把握・分析できる広い視野と知識・技能を有するようになること。

②　思考力・判断力・表現力

獲得した広い視野ならびに修得した知識･技能をもって，多様な環境問題の解決策を考察できる論理的な思考力・判断力・表現力を有するようになること。また，自分の考え・判断のプロセスを説明するためのコミュニケーション能力を有するようになること。

③　多様な人々との協創

地域社会から地球全体に至る様々な環境問題を自分の問題として共感的にとらえ，持続可能な社会の実現のため，多様な人々と協調・協働しつつ，主体的に行動する意志を有するようになること。

⑵　養成する人材

21世紀に生きる私たちには，環境負荷の少ない，持続可能な社会へ転換し，環境保全と経済システムを両立させた社会の実現が求められています。人間環境学部は，環境に関する人文･社会科学（文科系）と自然科学（理科系）の最新の研究に裏付けられた教育を学生に提供し，人間と自然の共生を多面的に考えられる「環境人」を育てます。

環境人は，①環境問題を自らの体験を通して考え，②職場や市民生活において高い専門性を発揮し，③人々の中でリーダーシップをもって行動し，持続可能な社会の実現に貢献する人です。公的領域（企業・自治体など）においては，環境保全と両立する経済発展を目指して，ビジネス・技術・組織の変革に取り組みます。また，私的領域（市民生活など）においては，環境に配慮した価値観を持ち，それに準じたライフスタイルを人々に提案し，実践します。

人間環境学部は，様々な地域の人々と協力しながら，産学官民の各領域において，持続可能な社会の実現に貢献できる人を育てます。

２．人間環境学部のカリキュラム

⑴　教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

人間環境学部は，持続可能な社会の実現に貢献できる学生を養成するため，以下の３点を教育課程の編成方針として明示します。

①　基礎から発展へ

人間と環境の関わりを学ぶために必要な基本概念を学ぶ入門科目，環境問題を科学的に考察するために必要な基礎知識を学ぶ基礎科目，環境問題を解決するために必要な専門知識と方法論を学ぶ発展科目を体系的に配置します。

②　視野の拡大

環境問題に関わる学問分野を７つの小さなまとまり（環境政策・環境経営・環境経済・環境教育・地域環境・科学技術・人文科学）に分類し，学生の興味・関心に応じた学際的な科目を提供します。また，学んだ知識・技能を統合し，問題解決力や新たな価値の創造力を育成するためにゼミナール科目を設けます。

③　経験の拡充

社会人基礎力を育成するとともに，人間と社会の諸々の相互関係を分析し，多様な人々と協働して環境について学修するためにフィールド科目を設けます。

⑵　カリキュラムの基本構造

人間環境学部の教育課程では，卒業所要単位数を124単位以上とします。授業科目は，広島修道大学に在籍する総ての学生に対して提供される修道スタンダード科目，グローバル科目，共通教育科目と，人間環境学部の学生に対して提供される主専攻科目からなり，修道スタンダード科目から６単位以上，共通教育科目から22単位以上，そして主専攻科目から62単位以上を修得することを卒業の必須条件とします。(「単位の修得と卒業」参照)

まず１年次には，全学共通の修道スタンダード科目を履修しますが，このうち修大基礎講座や初年次セミナーでは，全学共通の学修内容に加えて人間環境学部独自の観点や内容を加えて初年次教育を実施します。主専攻科目では，１年次から履修することができる「入門科目」において，人間環境学部での学修を進めていくために必要な問題意識，価値観，考え方を養い，基礎となる知識を人文科学，社会科学，自然科学の幅広い範囲から学ぶとともに，読解や分析などの基礎能力を習得します。これらの科目での学修は，次のレベルの基礎科目への橋渡しとなるものですから，興味・関心に合わせて，できるだけ多くの科目を履修することが望まれます。そして２年次からは人間環境学部での学修の中心となる「基礎科目」を履修します。この科目群には，環境政策，環境経営，環境経済，環境教育，地域環境，科学技術，人文科学の７つの分野があります。次のレベルの発展科目と密接に関連しているので，履修した入門科目の内容や自らの興味・関心，さらには将来の進路なども視野に入れて履修する分野，科目を選択することが必要です。３年次以降ではこれまでの内容をさらに深化・発展させ，専門・応用的な知識を習得するため，人間環境学部カリキュラムの最上位に位置する「発展科目」を置いています。

また，在学中のより早い時点から将来の職業に対する意識を明確化し，学修もそれに合わせて主体的に取り組むことができるように，２つの専門コース「環境マネジメントコース」「環境教育コース」を設けました。(「コース制について」参照)

また地球環境問題の進行や，グローバル化，政府の政策展開や企業活動の発展等にも的確に対応できる能力を身につけるためには，人間環境学の深い専門知識に加えて幅広い教養が必要とされます。人間環境学部では共通教育科目にも科目を提供するとともに,他の学部･学科･分野の主専攻科目を体系的に学ぶことのできる副専攻制度も設けています。

さらに人間環境学部では現場体験からの学びも重視しています。そのため，環境問題解決に向けた実践力，スキルの修得をめざした実習やプロジェクト，また企業や団体で実際の業務に従事するインターンシップなどから構成される「フィールド科目」を設けています。また本学の教育目標の一つである「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」の養成の実現を目的として「グローバル科目」が設置されています。留学支援教育や中国，韓国，ベトナム，ドイツ，イギリス，アメリカ，ニュージーランドでの語学研修も行われており，多様な価値観や異文化を理解できるグローバルな感覚を身につけた人材を育成するための科目・交換留学制度・海外セミナーの充実を図っています。

これらに加えて，人間環境学部ではきめ細かな少人数教育を行うために，２年次からのプレ・ゼミナール，３年次の環境ゼミナールａ・ｂ，そして卒業研究へとつながるゼミナール科目を設置しています。ゼミナール科目は少人数を対象とし，講義科目で得た知識を深化するとともに，興味のあるテーマを探究します。入門科目・基礎科目・発展科目およびゼミナール科目の段階的履修を通して，環境問題を自らの体験を通して考え，職場や市民生活において高い専門性を発揮し，人々の中でリーダーシップをもって行動し，持続可能な社会の実現に貢献する「環境人」を養成することを目標としています。

270ページに，修道スタンダード科目，グローバル科目，共通教育科目，主専攻科目のカリキュラム体系を図式化して示しました。